台大日本語文研究第 19 期
2010 年 6 月，頁 111-140
2010-06-02 收稿，2010-07-28 通過刊登

「いいです」的功能
—「いいです」以說話者的否定意思為中心—

深尾圓*

摘要

本稿是把從較高的地點下降的音調的「いいです」、針對說話者以否定表示的意思、整理並分析。「いいです」有「～沒有必要做」「～不要做」的語意。

「いいです」有四個效能。

（一）以說話者要拒絕對邀請或請求。

（二）說話者要表示否定的意志。

（三）說話者要抑制聽者剛才發生的言行。

（四）說話者要修正剛才的言行。

關鍵詞：說話者、否定的、意思表示、沒有必要做、不要做

* 興國管理學院應用日語學系副教授

The Functions of *Iidesu*, Which Express a Speaker's Negative Intention

Fukao, Madoka*

Abstract

In this paper, *Iidesu* with a rapid falling intonation which starts at a high level are put into one category, and analyzed as expressions which carry out a speaker's negative intention. *Iidesu* have two meanings. One is to express that it is not necessary to do so, and the other is to express that a speaker has no intention to do so. *Iidesu* have the following four functions. At first, a speaker can refuse to the invitation or request from others using *Iidesu*. Secondly, a speaker can express that he or she has no intention to do so toward the matter which is going to happen in the near future when he or she is asked about his or her intention. Thirdly, a speaker can restrain listener's action or words just before speaker' presence with *Iidesu*. Fourthly, a speaker can make corrections toward his or her words which have been just said or happened with *Iidesu*.

Keywords: speaker, negative intention, unnecessary, restrain, corrections

* Associate Professor, Hsing Kuo University

「いいです」の意味機能
―話し手の否定的な意思を表現する「いいです」を中心に―

深尾まどか*

要旨

本稿では、高い位置で始まる急激な下降調のイントネーションの「いいです」を,話し手の否定的な意思表示をするものとして考え、分析した。「いいです」は、「～する必要はない」「～する意志がない」という意味を表現し、次の 4 つの機能を持つ。(一)相手からの申し出，要求を断る、(二)否定的な意志を表現する、(三)相手の言動を抑制する、(四)自分の言動を修正する。分析の結果、「いいです」の使用について、次のことが明らかになった。1.「いいです」が使用できるのは「相手からの申し出が話し手の利益になるか、話し手に対して好意的なものである場合」だけではない。2.依頼に断る場合、「いいです」の使用には、相手から、話し手に対して物や行為などの移動があることが前提となり、相手に対して「必要ない」「いやだ」とはっきり言えるような状況であることが必要である。3.話し手の意向を聞く発話に対して、「いいです」は話し手にそうする意志がないことを表現する。話し手が相手の期待を感じるとき、それに対して「いいです」で話し手にそうする意志（またはその意志）がないことを表現できる。4.「いいです」で相手の動作を抑制するのは、「必要ない」と気がついていない相手に気がつかせる場合である。

キーワード：話し手、否定的な意思表示、必要ない、意志、期待

* 興国管理学院応用日本語学科准教授

「いいです」の意味機能
―話し手の否定的な意思を表現する「いいです」を中心に―

深尾まどか

一、はじめに

日本語を教えていると、次のような場面に遭遇する。

（1）教師：少し暑いですね。クーラーつけましょうか。（返事がない）やっぱり、いいですか。

学生：いい（H）↘です。（ニコニコと先生がクーラーをつけるのを待っている。）

日本人なら、この「いいです」を「(クーラーを）つけなくてもいいです」の意味であると解釈するが、学習者は「いい」という語彙から OK の返事だと理解して使うことがある[1]。このように、「いいです」が特に話し手の否定的な意思表示を意味することを学習者が理解できないと、日本語でのコミュニケーションに問題が生じることになる。本稿では、話し手の否定的な意思表示をする「いいです」の効率的な解釈を行い、日本語教育に役立てることを目指す。なお、「いいです」(「いい」）の他に、「いいよ」「いいですよ」「いいわ」「いいわよ」「いいの」「いいや」なども考察の対象とするが、「いいです」または「いい」でその他の表現を代表させることがある。

本稿で使用した用例は主にテレビ番組から集めた。その他の用例は、傍受資料やそれを基にした作例である。

二、先行研究

高梨（2002：106-109）は、評価的複合形式である「てもいい」と「なくてもいい」の意味について詳細に記述している。

「てもいい」: 当該事態が許容されるという評価を表す。＜許可＞＜

[1] 徐（1999：72）でも、「誘いを断る「いいです」が、日本語学習者は「良い」から想像して、逆に承諾と受け取ってしまいがちである」と指摘されている。

意向＞[2]＜許容＞＜不満＞＜後悔＞＜客観的許容＞

「なくてもいい」:当該事態が実現しないことが許容されるという評価を表す。「不必要」ということとほぼ等価である。

＜免除＞＜不満＞＜後悔＞＜不必要＞

高梨（2002）の指摘のうち、「なくてもいい」が「不必要」とほぼ同じ意味を表すという点が、「いいです」の意味を考える上でも重要な示唆を与えていると考えられる。森山（1999：78）も、「相手の依頼を受けるとき、「いいですよ↗」が普通であり、「いいです」とだけ言えば、断っているようなニュアンスになるのではないか。相手からの申し出に対して、その必要はない、といったことを表すからである」と指摘している。

「いいです」の先行研究には、森山（1990）、徐（1999）があり、「断りの表現」として記述されている。森山（1990：59-60）は、コミュニケーションにおける「断りの方略」について論じ、その中で依頼に対する断りの「いいです」「結構です」について言及している。徐（1999：74-75）は「いい」を中心に論じており、次の三つに大きく分類している。

（一）聞き手が話し手に行為を要求する場合

＜勧め的依頼＞＜勧誘＞

（二）聞き手が話し手に行為を提供する場合

（三）その他[3]

聞き手からのお礼または謝罪・同情などの気遣い・追及を遮る場合

森山（1990：60）は、「いいです」のような断り方ができる条件として、「相手のする依頼の言語行動そのものが、勧めになる場合である。勧めとは、依頼の受け手の利益を前提としているものである」

---

[2] 高梨（2002：107）は、「意向」について、「「その行為を行うことが許容できる」という消極的な表明にとどまる点で、意志形「しよう」などが表す意志とは異なるだろう」と説明している。

[3] 徐（1999：75）は、その他の談話タイプについては、「紙幅の都合により、現象の指摘だけにとどめておきたいと思う」としている。

と述べている。そして、徐（1999：76）は、拒否の応答として「いい」が使える条件を、「聞き手から話し手に申し出た行為もしくは勧誘が話し手の利益になるか、話し手に対して好意的なものである場合」であり、拒否を意味する「いい」は、「聞き手が引き起こそうとする事態の実現が話し手の立場において望ましいことを前提とする場合でしか使えない」と述べている。しかし、(2)（3）のように、「受け手の利益」を前提としていない状況で、拒否の応答として「いいです」を使うことができる場合がある。

（2）押し売り：マッサージ器、1 台買ってもらえませんかね。
　　主婦：いいです。使いませんから。

（3）加藤：今、催眠術の練習してるんだ。ちょっとかけさせてくれ。
　　岡田：えっ、いいよ。やだよ。

また、「いいです」の意味を、森山（1990：60）は、「（申し出なくても／気遣いをしなくても）いい」という意味として定式化していると言えるであろう」と述べている。徐（1999：76）も同じ意味として「いい」をとらえて分析を行っている。しかし、次のような「いいです」は「（申し出なくても／気遣いをしなくても）いい」という意味とは考えにくい。

（4）うらら：ご飯食べに行きましょう。（歩実がやってくる。中略。）行きましょう、新海さん。
　　新海：ごめん。俺、やっぱ、今日いいわ。（「GOOD LUCK！！」TBS）

（5）緑：明美は、ディベート、参加するの？
　　明美：いい（H）↘。無理。

（4）の「いいわ」は、歩実に好意を持つ新海が彼女が近くに来たのに気づいて言った言葉であり、「（気遣いをしなくても）いい」というより、積極的に話し手に「行く意志がないこと」「行かない」ということを表現している。(5）も「いい」で、話し手は「参加しない」という意志を伝えている。

さらに、「いいです」は拒否の応答以外にも使用されることがある。

（6）（練習中に鼻血を出したボクサー）

会長：もう、いい。ストップ。

（7）（鳥人間コンテストで、自作の飛行機でこれから飛び立とうとする参加者にインタビュアーが、軽く冗談で）おふたりのなれそめは‥、あっ、いいです。そんなことはどうでもよかったですね。

以上、先行研究を検討し、「いいです」が「不必要」の意味を表現することがあること、そして、「いいです」は勧め的依頼、勧誘など相手からの申し出に対する拒否の応答として使用されるが、「いいです」の使用は「聞き手から話し手に申し出た行為が話し手の利益になるか、話し手に対して好意的なものである場合」だけとは限らないことを見た。次節では、「いいです」が、どのようなときに拒否の応答など話し手の否定的な意思表示を表現するのかについて考察する。第 4 節では、先行研究の記述をふまえ、さらに詳しく「いいです」の機能について分析する。第 5 節では、その他の「いいです」について簡単に記述する。そして、第 6 節を本稿のまとめとする。

三、「いいです」の意味解釈

「いいです」は、どのようなときに拒否の応答など話し手の否定的な意思表示を表現するのだろうか。次の（8）の 2 つの「いいよ」はそれぞれ別の解釈がされ、日本人なら、続く括弧内の発話がなくてもほぼ間違うことはないと考えられる。

（8）A：今日はごちそうさせてください。

B-1：えっ、いい（H）↘ですよ↘。（割り勘にしましょう。）

B-2：えっ、‥‥いい（L）↘ですよ↗。（じゃ、ごちそうになります。）（↗は、上昇調のイントネーションを示す。）

（8 B-1）と（8 B-2）の意味の違いは、イントネーションの違いで表現される。（8 B-1）では、「いい」が高い位置で始まる急激な下降調のイントネーションで、話し手は相手の「ごちそうするという

申し出」を断っている。(8 B-2) では、「いい」が低い位置で始まる下降調のイントネーションで、相手の「ごちそうするという申し出」に OK の返事をしている。つまり、(8 B-2) のように「いいです」が OK または GOOD の意味として解釈されのは、「いい」が低い位置で始まる下降調のイントネーション ((L) ↘で示す) になるときであり、そして、(8 B-1) のように、話し手の否定的な意思表示として解釈されるのは、「いい」が高い位置で始まる急激な下降調のイントネーション ((H) ↘で示す) になるときである[4]。次の用例でも同じことが言える。(9 B-1) では、「いい」が高い位置で始まる急激な下降調のイントネーションで、話し手は「電話に出たくない」という意志を伝えている。(9 B-2) では、「いい」が低い位置で始まる下降調のイントネーションで「(恋人の) お父さんと話してもいい」という OK の返事をしている。

(9) A：お父さんが話したいって言ってるんだけど、電話代わってもいい？

B-1：えっ、いい (H) ↘よ (H) ↘。(また今度にして。)

B-2：えっ、いい (L) ↘よ↗。(代わるよ。)

この OK の返事をするときの「いいよ」(「いいですよ」) は、「よ」に上昇調のイントネーションがくることが多い。徐 (1999 : 77) は、「イイヨ」がどちらの応答としても使用可能な状況 (聞き手が引き起こそうとする事態が話し手にとって好意的なものであると同時に、事態実現が聞き手の希望に沿うものである場合) では、「イイヨ」の

[4] 「いや、いい」「もう、いい」のように、「いい」の前後に否定を表現する語などがくる場合は、話し手の否定的な意思表示の「いい」が、高い位置で始まる下降調のイントネーションにならないことがある。これは、前後に否定を表現する語があるので、「いい」のイントネーションが急激に下降する、高い位置で始まる下降調のイントネーションで話し手の否定的な意思を表現する必要がないからであると思われる。また、「相手の行動を抑える働きをする」「から」(花井 1990 : 69) が付加された「いいから」や「強調する働き」(田中 1973 : 239) がある「ってば」が付加された「いいってば」も、「から」や「ってば」にプロミネンスがくるとき、同じ理由で、高い位置で始まる下降調のイントネーションにならない場合がある。また、「いい？」「いいですか。」など、疑問文になるときも高い位置で始まる下降調のイントネーションになることが多い。これは、聞き手に注意を向けさせるという意図からだと思われる。

解釈がどちらになるのかは、音調で決まる。上昇調で発せられれば承諾で、下降調では拒否になると考えられる」と述べて、次の例文を挙げている。

（10）健一：昼を一緒に食わないか？
実：いいよ。

この徐（1999：77）の観察は、徐が挙げている条件以外の場面で使用される「いいよ」(「いいですよ」) にも概ね当てはめることができると考えられる。つまり、OK または Good の意思表示のときは、「よ」が上昇調のイントネーションになり、話し手の否定的な意思表示の場合は「よ」が下降調のイントネーションになることが多い。ただ、「よ」が低く付く上昇調のイントネーション[5]（(L) ↗で示す）で話し手の否定的な意思表示をすることがある。

（11）（美容師の柊二のために、ヘアデザインを集めたアルバムを作った杏子。しかし、柊二は不在で、美容師のマユミに「素人が」と言われ、気後れし、帰ろうとするところを、柊二の同僚のタクミに呼び止められる。）
タクミ：杏子さん、それ（集めたヘアデザイン集）置いてってくださいよ。
杏子：やっぱり、いい（H）↘よ（L）↗。（「Beautiful Life」フジテレビ）

また、次の（12）のように、特に男性話者による OK の意味の「いいよ」は、「よ」が低く付く短い上昇調または平調（→で示す）になる場合があり、このようなときには日本語学習者にとって「よ」のイントネーションが上昇調なのか下降調なのか判断しにくいようである[6]。

---

[5] 井上（1993：335-336）は「「よ」が命令文・依頼文に付いた場合、低くあるいは下降調で発音される「よ L」は、話し手の意向に反する状況が存在することに対する「異議申し立て」のニュアンスがある」と指摘している。

[6] 日本語学習者 1 人に聞いたところ、次の（ｉ）の「いい（L）↘よ↗」の「よ」は、上昇調と答えたが、用例（12）の「いい（L）↘よ→」の「よ」は下降調と答えた。
ｉ）弘人：うんって、返事早いよ。一応プロポーズなんだからさ。

（12）奈緒：あと 15 分、手つないでてもいい？

弘人：いい（L）↘よ→。（「たったひとつの恋」日本テレビ）

さらに、「よ」が少し長くなる例であるが、OK の返事で「よ」が下降調のイントネーションになる場合があった。

（13）歩実：ねえ、ship に乗せて。空飛んでみたいの、私。雲の上に行ってみたい。

副操縦士：いい（L）↘よ－↘。（「GOOD LUCK！！」TBS）

また、「よ」が付かない「いい」で話し手が OK の意思表示をすることがある。その「いい」のイントネーションは低い位置で始まる下降調である。

（14）雅也：今、いいかな？

牡丹：いい（L）↘。（「牡丹と薔薇」東海テレビ）

「いいです」で、OK または GOOD の意思表示をするときには、「いい」のイントネーションは低い位置で始まる下降調で、なおかつ、「いい」の次の「で」にプロミネンスがくることが多い。

（15）A：今、よろしいですか。

B：いい（L）↘**で**す。

したがって、本稿では、日本語学習者に指導するとき、「いい」のイントネーションの開始位置の高さの違いでその意味に違いが生じることを説明するとより効果的な指導ができるのではないかと考えている。つまり、高い位置で始まる急激な下降調のイントネーションは話し手の否定的な意思表示であると、指導することができる。本稿では、この高い位置で始まる下降調のイントネーションの「いいです」を中心に考察する。

四、「いいです」の機能の分類

「いいです」の機能を大きく次の四つに分けて考える。（一）相手からの申し出、要求を断る、（二）否定的な意志を表現する、（三）相手の言動を抑制する、（四）自分の言動を修正する。

奈緒：いい（L）↘よ↗。了解！（「たったひとつの恋」日本テレビ）

（一）相手からの申し出、要求を断る用法

「申し出、勧誘[7]に対する断り」「行為要求[8]に対する断り」の２つに大きく分けて考察する。

1.申し出、勧誘に対する断り

徐（1999：76）で指摘されていたように、相手からの申し出、勧誘に対して、断りの応答として「いいです」が使用できるが、本稿では、「いいです」の使用できる範囲を徐（1999）より、広く設定している。「いいです」は、＜申し出＞＜勧誘＞＜提案＞に対して「必要はない」「その意志はない」という断りの機能を持つ。

＜申し出＞

（16）～（18）は、相手[9]からの申し出が話し手の利益になるものである。

（16）（大きな荷物を持っているおばあさんに）

男の人：手伝いましょうか。

おばあさん：え、いい（H）↘です↘。軽いですから。

（17）（フランス料理のレストランで）

A：きょうは、わたしのおごり。

B：えっ、いい（H）↘よ↘（H）。

（18）兄：町長が仲人してくれるって。

妹：えっ、いい（H）↘わよ（H）↘。

（16）では、「いいです」が「手伝う必要ありません」「大丈夫です」、（17）では、「おごる必要はない」、そして、（18）では、「町長の仲人は必要ない」の意味で使われている。

次の（19）～（21）は、話し手の利益にはならないもの、または、

---

[7] 安達・宮崎他（2003：62）は、勧誘のモダリティについて「話し手の行為を前提として、聞き手に行為の実行を誘いかけることを表すモダリティである」と説明している。

[8] 安達・宮崎他（2003：42-80）は、行為要求のモダリティを＜命令＞＜依頼＞＜許可・勧め・助言＞＜禁止＞の四つに分類している。その中で、＜許可・勧め・助言＞について、「話し手が聞き手にとって有益な行為の実行を求めるという機能である」と述べている。

[9] （18）のように、第３者からの申し出の場合には、「いいです」は、聞き手に第３者の言動は「必要ない」という話し手の意思を伝える。

迷惑になるものである。「必要ない」「その意志はない」と拒否の応答として「いいです」が使用できる。

（19）ゴリ：キヨミが好きだ！

キヨミ：いい（H）↘です。ごめんなさい。

（20）（1ヶ月1万円の節約生活をしているヒナ）

浜口：俺、住み込みでヒナ応援するわ。

ヒナ：いい（H）↘わ（H）↘。（中略）いい（H）↘わ（H）↘。嫌だ。（「いきなり！黄金伝説。」テレビ朝日）

（21）鈴木：催眠術、田上にかけてやるよ。

田上：えっ、いい（H）↘よ（H）↘。何言ってるんだよ。

（19）では、「いいです」が「その意志はない」「好きじゃありません」、（20）では、「住み込みは必要はない」「住み込みなどしてもらいたくない」、そして、（21）では、「催眠術は必要ない」「催眠術などかけられたくない」の意味で使われている。

次に、配慮が必要な相手からの申し出について見てみよう。

（22）先生：来週小テストをします。

学生：*いい（H）です↘よ↘。先週もしましたから[10]。

ただ、次のように、学生と先生の間の心理的距離が近い場合は「いい」で「必要ない」の意思表示をすることができる。

（23）学習塾の先生:今日は試験をします。

中学生：いい（H）↘よ（H）↘、先生。きのうもやったし。

また、次の場合は目上の人からの申し出に問題なく「いいです」が使用できる。

（24）（紅茶の準備をして）

先生の奥さん:お砂糖、どうぞ。

学生：あ、いい（H）↘です。

（22）と（24）の違いは、相手からの申し出に対して、話し手に選択権があるかどうかの違いであり、「いいです」が使用できるのは

[10] 例（22）は本誌査読者の先生からご教示いただいた用例に、少し手を加えたものである。

話し手に選択権があるときのみであると言える。(22)の「いいです」が不適切となるのは、大学の教授の試験などの決定に対して、学生が「必要ない」と異議を唱えるということはないだろうからであり、これに対して、同じ目上の人に対する断りでも、(24)のように、砂糖を入れるかどうかについての選択は、話し手が自由に決定できる事柄であるから「いいです」を使用できると考えられる。「いいです」の使用には、「必要ない」「その意志はない」とはっきり言えるような相手や事柄と状況であることが必要である。

＜勧誘＞

(25)では、勧誘に対して、「気遣いをしなくてもいい」(徐 1999:76)、「必要はない」という意味で「いいです」が使用されている。

(25) 友人A：お茶でもいかが。
　　友人B：あ、いい（H）↘です。さっきコーヒー飲んだから。

次に、(26)、(27)では、話し手自身に何か理由があり、「いいです」で、「そうする意志はない」ことを伝えている。

(26) アイコ：お昼食べに行きましょう。
　　工藤：俺、いい（H）↘わ。まだ仕事があるんだ。

(27) A：お前のギター、いいよな。俺と一緒にバンドをやってくれないか。
　　B：いい（H）↘。バンドは、興味ないんだ。

(25)では、「いいです」が「お茶はいりません」「大丈夫です」、(26)では、「今ご飯を食べに行かない」、そして、(27)では、「バンドはしない」の意味で使われている。

次に、配慮が必要な相手からの申し出について見てみよう。

(28) 教師：スピーチコンテストに参加しませんか。
　　学生：私、いい（H）↘です。緊張しやすいタイプなんです。

(28)では、「いいです」が「参加する意志はない」「参加しません」の意味で使用できる。これは、話し手が参加不参加について自由に決めることができるからであると考えられる。これに対して、(30)では、「いいです」が不自然となる。

（29）同僚 A：今晩一緒に飲まない？

同僚 B：今晩はいい（H）↘。休肝日なんだ。

（30）上司：今晩一緒に飲みませんか。

部下：??今晩はいい（H）↘です。用事がありますので。

これは、「いいです」が「必要ない」「飲みません（その意志はない）」と、直接的な拒否の応答[11]になってしまうからだと考えられる。（31）のように、「すみません」と一言付け加えると、より自然な発話となる。日本の文化では上司に誘われたら、少なくとも「行きません」という断り方はしないという知識が必要であり、「いいです」の使用には待遇上の配慮も必要である。

（31）上司：今晩一緒に飲みませんか。

部下：すみません。今晩はいい（H）↘です。用事がありますので。

＜提案＞

（32）は、相手から申し出が話し手の利益になるもので、（33）～（35）は、特には話し手の利益にはならないものである。「必要ない」「その意志はない」という拒否の応答として「いいです」が使用できる。

（32）妹：バス、遅いね。タクシーで行こうか。

姉：いい（H）↘よ↘。もう来るから。

（33）（ダチョウの卵を割るタイミングが悪くてウルトラスローの録画に失敗した 2 人。実験が終わって）

有野：（実験室を）出てくところ、スーパースローで撮ってもらおうか。

つるの：いい（H）↘ですよ、もう。（「いきなり！黄金伝説。」テレビ朝日）

（34）娘：少し暑いね。クーラーつけようか。

[11] 山口（1997：44）は、書類整理手伝いの申し出を断る場面という談話完成テストで、「台湾人留学生と中国人留学生には、日本人母語話者に比べ「いいです」という直接的な断り表現が多く見られる」と報告している。

母親：いい（H）↘よ↘。窓開ければ、涼しいから。
娘：お母さんはいつも節約優先なんだから。
母親：エコと言って、エコと。

（35）姉：駅から家まで歩いて帰ろうか。
妹：いい（H）↘よ↘。疲れるから。

（32）では、「いいです」が「タクシーに乗る必要はない」、（33）では、「ウルトラスローでとってもらう必要はない」、（34）では、「クーラーをつける必要はない」「クーラーはつけない」、そして、（35）では、「歩いて帰る必要はない」「歩いて帰らない」の意味で使われている。

2.行為要求に対する断り

「いいです」は、＜勧め、助言＞＜勧め的依頼＞＜依頼＞＜指示＞に対して「必要はない」「その意志はない」という断りの機能を持つことがある。

＜勧め、助言＞

（36）姉：ピアノ、もっと練習したほうがいいんじゃないの。発表会が近いんでしょ。
妹：いい（H）↘の。ちゃんと練習したから。

（37）魚屋：今日は、鯖がおいしいよ。
主婦：鯖はいい（H）↘。今日はエビフライなの。

（38）花子：いっそのこと、サトシと付き合っちゃえば。
薫：えっ、いい（H）↘よ↘。サトシとはそんなんじゃないから。

（36）では、「いいです」が「練習は必要ない」「大丈夫だ」、（37）では、「鯖はいらない」「鯖は買わない」、そして、（38）では、「サトシとは付き合わない」の意味で使われている。

次に、配慮が必要な相手からの申し出について簡単に見てみよう。＜勧め、助言＞の場合も＜申し出＞＜勧誘＞の場合と同様に、「いいです」の使用は、「必要ない」「その意志はない」とはっきり言える相手や事柄と状況に限られる。

（39）（仕事中に突然フラッと倒れた田中）

部長：田中君、大丈夫か。有給とって、一度病院で検査してもらったらどうだ？

田中：いい（H）↘です。今僕が抜けるわけには行きませんから。

（40）指導教授：田中君、「食べ物に関することわざ」を研究テーマにしたらどうですか？

田中：*いい（H）↘です。あまり興味ありませんから。

（39）のように、有給休暇をとって、病院で検査するかどうかは個人の判断に任されることであり、相手の気遣いに対して「有給休暇をとる意志はない」と断ることはできるが、（40）のように、指導教授が好意で勧めてくれる研究テーマに対して「このテーマで研究する意志はない」と「いいです」で直接的に断ると人間関係に角が立つことになる。

＜勧め的依頼＞

森山（1990：60）、徐（1999：74）で指摘されていたように、勧め的依頼[12]に対して、「気遣いは必要ない」と断りの応答として「いいです」が使用できる。

（41）主人：お座りください。

訪問客：いい（H）↘です。（森山（1990：60）より引用）

そして、＜勧め的依頼＞に対しても、「いいです」が「必要ない」「そうする意志はない」を表現できる。

（42）娘：お父さん、一度、病院でちゃんと検査して。

父親：いい（H）↘よ。大丈夫だ。

（41）では、「いいです」が「気遣いは必要ありません」「大丈夫です」、（42）では、「検査は必要ない」「検査はしない」の意味で使

[12] ただ、徐（1999：74）の挙げている例文は本稿での＜指示＞の用例にあたる。
i）（繁夫、おにぎりの残りを亮太にさしだし）
繁夫：おまえ、食えよ。
亮太：いいよ↘、繁ちゃん、食べてよ。（徐（1999：74）、『テレビドラマ代表作選集 1993 年出版』）

われている。

＜依頼＞

（43）のような依頼に対する断りの応答としては「いいです」は通常使われない。

（43）A：ワープロ、手伝ってくれない？

B：*いい（H）↘。今忙しいんだ。

しかし、次の環境で「いいです」を依頼に対する断りとして使用できる場合がある。（44）～（46）では、知らない人からの迷惑な依頼に断るときは、「いいです」が問題なく使える。

（44）押し売り：美顔器、1台買ってもらえませんかね。

主婦：いいです。使いませんから。

（45）悪徳業者：ちょっと床下見せてもらえませんか。

主婦：えっ、いい（H）↘です。うちは大丈夫ですから。

（46）男：今、アンケートをやってるんですが、少しお時間もらえませんか？

買い物客：あ、いい（H）↘です。急いでいますので。

（44）では、美顔器が、（45）では、床下を見るという行為が、「必要ない」と断る対象となる。（46）は、物や行為の移動はないが、アンケートの後に何か買わされるのだろうという心理が働くため、「いいです」で「必要ない」と断ることができるのだろうと思われる。

次に友人や恋人など親しい間柄の人物からの依頼の場合を見てみよう。

（47）花子：お父さんが話したいって言ってるんだけど、電話代わってもいい？

花子の恋人：えっ、いい（H）↘よ（H）↘。（また今度にして。）

（3）加藤：今、催眠術の練習してるんだ。ちょっとかけさせてくれ。

岡田：えっ、いいよ。やだよ。

（48）田口：ラーメンおごるから、手伝って。

ミカ：いい（H）↘。太るから。

（47）では、恋人から父親と話してほしいという依頼[13]であり、電話を代わるという行為が「必要ない」「いやだ」と断る対象となる。（3）では、友人から催眠術をかけさせてくれという依頼であり、催眠術をかけるという行為が「必要ない」「いやだ」と断る対象となる。（48）では、ラーメンをごちそうするから手伝ってという依頼に対して、ラーメンは「いらない」「食べない」と言うことで、間接的に断っている。

これに対して、友人からのパーティーのチケット購入の依頼（49）では、少し「いいです」が使いにくくなり、友人の夫の本の購入依頼（50）では、「いいです」の使用が不自然となりやすい。

（49）友人 A：クリスマスパーティーのチケット、買ってくれない？

友人 B：？いい（H）↘。

友人 C：パーティーはいい（H）↘。興味ないから。

（50）友人 A：主人が本を出したの。一冊買ってもらえない？

友人 B：*いい（H）↘。

友人 C：??いい（H）↘。今月ピンチなの。

友人 D：本はいい（H）↘。読む時間がないから。

つまり、相手からの好意的な申し出ではなく、話し手が迷惑または負担だと感じる依頼に断る場合、「いいです」は知らない人より、親しい人に使いにくい。そして、その使用には、相手から、話し手に対して物や行為などの移動があることが前提となり、相手に対して「必要ない」「いやだ」とはっきり言えるような状況であることが必要である。

＜指示＞

相手のことを考えた命令文を「指示文」としておく。＜指示＞の場合も＜申し出＞＜勧誘＞＜勧め、助言＞などの場合と同様に、「い

[13] （47）は、厳密には許可を求める発話であるが、話し手の「電話にかわってもらいたい」という気持ちが感じられるため、依頼文として分類した。

いです」の使用は、「必要ない」「そうする意志はない」とはっきり言える相手や事柄と状況に限られる。(53) のように、配慮の必要な相手には使用に制限がある。

(51) 母：朝ごはんちゃんと食べなさい。
　　息子：いい（H）↘。食欲ないから。
(52) 姉：参考書も読んでおきなさいよ。
　　妹：いい（H）↘。もう時間がないから。
(53) 教授：この本を読みなさい。
　　学生：*いい（H）↘です。忙しいんです。

（二）否定的な意志を表現する用法

話し手の意向を聞く発話に対して、「いいです」は「必要ない」から「～しない」と話し手にそうする意志がないことを表現する。

(54) 店員：お飲み物はどうなさいますか。
　　客：あ、いい（H）↘です。
(55) 妻：今日晩ご飯は？
　　夫：あー、今日は、いい（H）↘。
(56) A：コンビニでアイスでも買う？
　　B：あー、いい（H）↘。歯が痛いんだ。

(54) では、「いいです」が「飲み物はいりません」「飲み物は飲みません」、(55) では、「晩ごはんはいらない」「家で晩ごはんは食べない」、(56) では、「アイスは買わない」の意味で使われている。

次の (57) ～ (60) では、相手からの申し出ではなく、単に参加するかどうか、進学するかどうか、そして、旅行に行くかどうか聞かれた場合でも、「今日の飲み会に行きません」「スピーチコンテストに参加しない」「進学しません」「旅行には行きません」の意味で、話し手ににそうする意志がないことを「いいです」が表現できる。

(57) 同僚 A：今日の飲み会、行きますか。
　　同僚 B：私はいい（H）↘です。
(58) 学生 A：スピーチコンテスト、参加する？
　　学生 B：いい（H）↘。無理。

（59）先生：渡辺さんは進学しますか。
渡辺：大学は、いい（H）↘です。就職したいと思っています。

（60）同僚 A：連休は、どこか旅行にいらっしゃるんですか？
同僚 B：旅行はいい（H）↘です。どこも人でいっぱいだから、家でのんびりします。

さらに、次の場合にも話し手ににそうする意志がないことを「いいです」が表現できる。

（61）（医者の家系の向井に結婚を前提に付き合ってほしいと告白されたルミ）
明：向井さんと付き合うのか。
ルミ：いい（H）↘よ。無理。育った環境が違いすぎるから。

（62）（山田に付き合ってほしいと告白されたマリ）
景子：山田さんと付き合うの？
マリ：いい（H）↘。無理、生理的に。

（54）～（62）では、これからのこと、または、近い将来のことに対して、話し手の意向を聞く発話に対して、「いいです」で「必要ない」「そうする意志はない」と答えていた。しかし、「いいです」は次のように話し手が自分の好き、嫌いについて述べる場合に、習慣的な動作、事柄に対しても「いいです」で「～しない」と話し手の意志を表現できる場合がある。

（63）A：クラシックはよく聞きますか。
B：クラシックは、いい（H）↘です。難しいですから。

（64）同僚 A：よく海外旅行するんですか。
同僚 B：外国はいい（H）↘です。やっぱり日本の方が。

（65）インタビュアー：海鼠は好きですか。
俳優：海鼠はいい（H）↘です。あの食感が、どうも。

（63）では、「いいです」が「クラシックは聞きません」、（64）では、「外国は旅行しません」、（65）では、「海鼠は好きじゃありません」の意味で使われている。（54）～（65）で、すべて「いいです」

で話し手ににそうする意志（またはその意志）がないことを表現できることを見た。(54) ～ (65) に共通するのは、意向を聞かれた話し手が、相手（または第 3 者）の期待を感じたとき、「いいです」が使用できるということである。例えば、(54) では、店員のお客さんに飲み物を注文してもらいたいという期待、(57) では、同僚の飲み会に行くだろうという期待、(59) では、先生の学生に進学してもらいたいという期待、そして、(63) では、相手のクラッシックが好きであってもらいたいという期待を感じ、そして、(61) では、「向井の交際してもらいたい」という期待に対して、話し手は「いいです」でそうする意志（またはその意志）がないことを表現できると考えられるのである。

ただ、「いいです」は、話し手に参加する義務や担当する義務などがある場合は、話し手の意向を聞く発話に対しても「～しない（その意志はない)」の意味で使用できない。(66) の「会議に参加しません」の意味の「いいです」は少し不自然に感じられ、(67) の「卒業式に出席しません」の意味の「いいです」では不適格になる。

(66) 同僚 A：午後の会議、参加しますか。
同僚 B-1：？私はいい（H）↘です。3 時から大事なプレゼンがあるので。
同僚 B-2：いや、参加しません。3 時から大事なプレゼンがあるので。

(67) 学生：先生、卒業式にいらっしゃいますか。
教師 B-1：*いい（H）↘です。その日は都合が悪いんです。
教師 B-2：いいえ、行きません。その日は都合が悪いんです。

「いいです」を「～しない（その意志はない)」の意味で使うためには、話し手が参加するか、または、担当するかなど、その行為を行うかどうかについて、自由に決められる状況にある場合に限られると言える。次の (68) は、よくサスペンス劇場などのドラマで見る場面だが、同じ会議への参加でも、自由に参加不参加を話し手に

決める権限がある場合には、「いいです」で「参加しない」を表現することができる。

（68）若手刑事：通り魔事件の対策会議、参加しますか。

ベテラン刑事：俺は、いい（H）↘。

若手刑事：参加しないんですか。

ベテラン刑事：俺は、いい（H）↘よ↘。

（三）相手の言動を抑制する用法

この用法の「いいです」は、「～する必要はない」という意味になる。談話上の機能は、相手の直前の言動を抑制する働きを持つ。相手の言動が話し手にとって好意的にまたは中立[14]に感じられる場合には、「いいです」は、「～しなくてもいい」という意味を表現し、相手の言動が話し手にとって不快に感じられる場合には、「～してもらいたくない」「～しないでもらいたい」という意味を表現する。

（69）～（71）、（6）は、相手の言動が話し手にとって好意的にまたは中立に感じられる場合である。

（69）（きれいな花を見つけてとろうとするパウロ）

パウロ：とってあげる。

なお：いい（H）↘よお（H）↘。（「あいのり」フジテレビ）

（6）（練習中に鼻血を出したボクサー）

会長：もう、いい（H）↘。ストップ。

（70）（病院で、シャツを脱いで胸を出そうとする患者のおじさんに）医者：あ、いい（H）↘です、いい（H）↘です。

（71）（依頼人のことが心配で、お茶を出して、そのまま部屋に居続ける助手に向かって）

弁護士：君は、いい（H）↘。ここから先は弁護士同士の話だ。

（69）は、「いいです」が「花はとらなくていい」、（6）は、「戦わなくていい」、（70）は、「シャツは脱がなくてもいい」、そして、（71）

[14] ここで言う「中立」に感じられる相手の言動とは、話し手にとって、特に好意的にも、不快にも感じられない言動を指す。

は、「今ここに居なくてもいい」という意味になる。

さらに、次の例を見てみよう。

（72）（学生が作文を消して書き直そうとしているのを見て）
先生：あっ、いい（H）↘です。（そこは書き直さなくてもいいです。）

（73）学生：先生。（と言って、作文を机の上へ）
先生：あ、いい（H）↘です。これは、今日の課題じゃないですよ。

（72）では、話し手が作文を消そうとしている学生を見て、「消さなくてもいいです」とその動作を止めるために「いいです」を使っている。（73）では、間違って来週の課題を提出しようとした学生を止めるために「いいです」を使っている。

これに対して、次の（74）では、学生によって既に書かれた作文を読んでから、「いいです」と言っており、相手の直前の動作に対してのコメントではないので、ここでは「いいです」で相手の動作を抑制することができない。（75）でも、学生の書いた作文を全部読んでから、「いいです」と言っており、相手の直前の動作に対してのコメントではないので、「いいです」を使うことができない。

（74）（学生の書いた作文を読んで）先生：*いい（H）↘です。ここは、間違いです。直してください。

（75）（学生の書いた作文を全部読んでから）先生：*いい（H）↘です。これは、宿題じゃありませんよ。

次の（76）～（78）は、相手の言動が話し手にとって不快に感じられる場合である。

（76）（体育教師の免許を持っていて、救命のことは詳しいと言った後で、人工呼吸の実演に失敗した妻。次の救急場面で司会者に「ゲストの皆さんはどうですか」と聞かれて、すかさず）
妻：私、救命救急の…。（横から）
夫：お前、もういい（H）↘よ（H）↘。（「たけしの本当は怖

い家庭の医学」テレビ朝日）

（77）（テレビ番組で負けて、料理が食べられない中堅芸人。料理を食べているベテラン俳優の後ろで）

芸人：ちょっと、料理の味はどうなの？ 赤貝はどうなの？

ベテラン俳優：（うるさそうに）いい（H）んだ↘よ（H）↘。

芸人：それはないでしょう。ちょっと。

（78）（レストランで、待たされた挙句、注文した飲み物とは違う飲み物が来る。）

ウエートレス：ウーロン茶です。

お客：ホットコーヒー頼みましたよね。これ何ですか。

ウエートレス：ウーロン茶。

お客：ホットコーヒー頼みましたよね。（手を振りながら）いい（H）↘です。（「ためしてガッテン」NHK）

（76）は、「口を出さないでもらいたい」という意味に、（77）は、「そんなことは聞かないでもらいたい」から「そんなことは聞くな」という意味に、（78）は、「ウーロン茶はいりません」「ウーロン茶などもらいたくありません」という意味になる。

（72）では、話し手が作文を消そうとしている学生を見て、「消さなくてもいいです」とその動作を止めるために「いいです」を使うことができた。しかし、次の場合には「いいです」で相手の動作を抑制することはできない。

（79）（落書きをしている生徒を見つけて）先生：*いい（H）↘ですよ（H）↘。

（80）（つまみ食いをする息子に）母親：こらっ、*いい（H）↘よ↘。

ここから、「いいです」で相手の直前の動作を抑制するためには、次の 2 点が必要になることがわかる。①相手はそうする必要があると思っている。②「必要ない」と気がついていない相手に気がつかせる。

（四）自分の言動を修正する用法

「いいです」には、話し手の直前の言動を修正する働きをする場合がある。「いいです」は「～する必要はない」の意味と「～しない」の意味を表現する。

（81）駅まで行くなら、スーパーで卵、買ってきて。あっ、いい（H）↘。卵はマルトミで買うんだった。あそこの卵はおいしいから。

（7）（鳥人間コンテストで、自作の飛行機でこれから飛び立とうとする参加者にインタビュアーが、軽く冗談で）
おふたりのなれそめは…、あっ、いいです。そんなことはどうでもよかったですね。

（82）（2年生の学生の作文を添削しかけて）あっ、こっちはいい（H）↘んだ。先に3年生のを見ないと。

（83）（学生の作文を見て）先生:ここを直してください。あっ、やっぱりいい（H）↘です。（直さないでください。）

（84）（友人に電話をするが、留守電。仕方なくメッセージを残す。）
ご飯でもご馳走しようと思ったんだけど･･･、いい（H）↘です。（「恋愛偏差値」フジテレビ）

（81）では、「いいです」が「卵はスーパーで買わなくてもいい」、（7）では、「なれそめは言わなくていい」、（82）では、「2年生の学生の作文はまだ見なくてもいい」、（83）では、「直さなくていいです」という意味で、そして、（84）では、「ご馳走するのはやめます」、つまり、「ご馳走しません」の意味で使われている。

次の例は、相手の反応を見て、話し手が自分の直前の言動を撤回する場面である。

（85）（保育園の外で男に付きまとわれた真知子、園児を迎えにきた母親に）
真知子：あ、外に変な男、いませんでした？
園児の母親：？？
真知子：ああ、いい（H）↘です。いい（H）↘です。（恋は）

（86）（真剣に話しているのに茶化されて）もう、いい（H）↘わ↗。

もう話しません。

（85）は、「いいです」が「もう気にしなくてもいい」、（86）は、「もう話さない」という意味になる。（81）～（86）、（7）から、前に「あっ」「ああ」「やっぱり」、逆接の接続助詞「けど」、そして、「もう[15]」などがくると、その後の「いいです」が話し手の否定的な意思を表現し、それ以前の言動を修正しやすくなると言える。「あっ」「ああ」は話し手が何かに気づいたことを表現する感動詞であり、「やっぱり」は「話し手が発話時点で妥当だと考える判断を表す[16]」ため、「必要ない」「～しない（その意志はない）」という意味を持つ「いいです」といっしょに用いることにより、「けど」などの助詞と同じように、話し手の主張の転換を表現し、それ以前の言動を修正する働きがより明確に表現されるようになると考えられる。

五、低い位置で始まる下降調のイントネーションの「いいです」の機能

低い位置で始まる下降調のイントネーションの「いい（L）↘です」の機能について簡単に見ておく。

動作主が聞き手または第 3 者の場合には、「いい（L）↘です」は、「～する必要はない」と聞き手への許可または指示を表現する。

（87）娘：これ、洗わなくてもいい？

母：うん、いい（L）↘。

（88）学生：先生、これは今日提出しなければなりませんか。

先生：いい（L）↘です。それは、宿題じゃありませんから。

これに対して、高い位置で始まる下降調のイントネーションの「いいです」は、聞き手が気づいていないことを気づかせるという働きをする。

動作主が話し手の場合には、「いい（L）↘です」は、「～しなくてもいい」「～する必要はない」という話し手の意思を表現する。

---

[15] 「もう」について、森田（1988:1127）は、「事柄が、話し手の意識中の基準点を超えている場合に用いる」と指摘している。

[16] 「やっぱり」について詳しくは、深尾（1996:44）を参照されたい。

（89）母：明日、仕事何時から？

娘：明日はいい（L）↘の。休館日だから。

（90）母：金魚に餌あげたの？

息子：いい（L）↘。さっきあげたから。

これらの「いいです」は特に強調する場合を除いて、「いい」が低い位置で始まる下降調のイントネーションになる。

これらに、OK または GOOD の意味を表現する「いいです」を合わせて表一にまとめる。

表一「いいです」の機能

	いい（H）↘です	いい（L）↘です	
	A.	B.	C.
機能	（一）申し出、要求を断る。 （二）否定的な意志を表現する。 （三）相手の言動を抑制する。 （四）自分の言動を修正する。	（一）必要ないという聞き手への許可または指示を表現する。 （二）必要ないという話し手の意思を表現する。	OK または Good
意味	～する必要はない ～しない（その意志はない）	～する必要はない	

六、おわりに

本稿では、高い位置で始まる急激な下降調のイントネーションの「いいです」を、話し手の否定的な意思表示をするものとして考え、分析してきた。「いいです」は、「～する必要はない」（「～しなくてもいい」「～してもらいたくない」）という意味の他に、「～する意志はない」（「～しない」）という意味を表現する。

そして、「いいです」の機能を次の 4 つに分類した。（一）相手からの申し出，要求を断る、（二）否定的な意志を表現する、（三）相

手の言動を抑制する、(四) 自分の言動を修正する。分析の結果、「いいです」の使用について、次のことが明らかになった。1.「いいです」が使用できるのは「相手からの申し出が話し手の利益になるか、話し手に対して好意的なものである場合」だけとは限らない。2.話し手が迷惑または負担だと感じる依頼に断る場合、「いいです」は知らない人より、親しい人に使いにくい。そして、その使用には、相手から、話し手に対して物や行為などの移動があることが前提となり、相手に対して「いやだ」「必要ない」とはっきり言えるような状況であることが必要である。3.話し手の意向を聞く発話に対して、「いいです」は話し手にそうする意志がないことを表現する。話し手が相手の期待を感じるとき、それに対して「いいです」で話し手にそうする意志 (またはその意志) がないことを表現できる。4.「いいです」で相手の直前の動作を抑制するのは、「必要ない」と気がついていない相手に気がつかせる場合である。5.「いいです」が自分の直前の言動を修正するとき、「あっ」、「やっぱり」、逆接の接続助詞「けど」、そして、「もう」などといっしょに使用されることが多い。6. 特に断りの表現として使用される「いいです」は、話し手自身に選択権があり、「必要ない」「その意志がない」とはっきり言える相手や事柄に対して使われる。

「いいです」の 4 つの機能は、(一) 相手からの申し出を断る、(二) 話し手の意向を聞く発話に対して否定的な意志を表現する、(三) 相手の直前の言動を抑制する、(四) 自分の直前の言動を修正する、というものであり、これから起きること、または、直前の言動に対して、話し手の発話時[17]の否定的な意思を表現していると言える。これらの「いいです」は「発話時における話し手の心的態度」(中右 1999 : 28) を表現するモダリティ表現の 1 つとして考えることができる。日本語学習者に指導する際、申し出、勧誘に対する断りの表

[17] つまり、「いいです」は、次のように「行きませんでした」と過去のことには使うことができない。
ｉ) 同僚 A:昨日の飲み会、行きましたか。
同僚 B:*昨日はよかったです。用事があって。

現として使われる場合だけを指導するのではなく、これらの「いいです」全般にわたって適用できる意味をひとまとめにして指導することによって、学習効率の良い指導を行うことができると考えられる。

参考文献

安達太郎・雨宮雄一・高梨信乃・野田春美・宮崎和人（2003）日本語記述文法研究会（編）『現代日本語文法 4 第 8 部モダリティ』くろしお出版

井上優（1993）「発話における「タイミング考慮」と「矛盾考慮」」『国立国語研究所報告 105 研究報告集』14 秀英出版 P.330-360

徐愛紅（1999）「「イイ」と「イイヨ」の意味機能－談話における応答を中心に－」『日本語教育』101 日本語教育学会 PP.71-80

高梨信乃（2002）「評価のモダリティ」仁田義雄・益岡隆志他編『新日本語文法選書 4 モダリティ』くろしお出版 PP.80-120

田中章夫（1973）「終助詞と間投助詞」『品詞別日本文法講座 助詞』明治書院 PP.209-247

中右実（1999）「モダリティをどう捉えるか」『月刊言語』28-6 大修館書店 PP.26-33

花井裕（1990）「「ので」の情報領域－「から」の対話性と比較して－」『阪大日本語研究』2 大阪大学大学院文学研究科日本語学講座 PP.56-81

深尾まどか（1996）「「やはり」「やっぱり」について」『日本語学・日本語教育論集』3 名古屋学院大学留学生別科（日本研究プログラム）PP.41-54

森田良行（1988）『基礎日本語辞典』角川書店

森山卓郎（1990）「断りの方略－対人関係とコミュニケーション」『月刊言語』19-8 大修館書店 PP.59-66

森山卓郎（1999）「モダリティとイントネーション」『月刊言語』28-6 大修館書店 PP.74-79

山口和代（1997)「コミュニケーション・スタイルと社会文化的要因
—中国人おやび台湾人留学生を対象として—」『日本語教育』93 日
本語教育学会 PP.38-48

用例出典（本文中用いた略称を括弧で示す）

〈映画〉（恋は)「恋は舞い降りた」東宝 1997

謝辞：

本稿執筆にあたり、査読者の先生方より貴重なご助言をいただいた。記して感謝申し上げる。